

中央公民館講座



日程等▼下表参照

対象▼村内在住・在勤・在学の方

受講料▼無料

その他▼▽応募者多数の場合は抽選で決定します。▽受講の可否は、応募者全員に郵送でお知らせします。

申し込み・問い合わせ▼6月13日(木)から23日

【募集講座一覧】

講座名等	日程等
1. やさしい篆刻(てんこく)体験講座(全4回) 今回は、さまざまな用途に利用できる、名前のかな一文字印を作ります。はがき等に使用するサイズです。篆刻に使用する用具等は事務局が用意しますので、筆記用具とメモ用紙をお持ちの上、お気軽にご参加ください。	期日▼7月11日・18日・25日、8月1日 (全て木曜日、全4回) 時間▼午前10時～正午 定員▼10人 講師▼金田祥石さん(日展入選・篆刻家) 費用▼1,000円/人(材料費、初回徴収)
2.じっくり読む「源氏物語」その8(全6回) さらに理解を深めるため、紙の資料のほか、インターネットなどを利用して、さまざまな画像やデータをプロジェクターに投影して楽しく学びます。 ①これまでのあらすじ ②「御法」…紫の上、亡くなる ③「幻」…紫の上を偲んで～源氏退場～ ④「勾兵部卿」…新たな主人公たち ⑤「紅梅」…多情な勾宮 ⑥「竹河」…玉鬘の子どもたち	期日▼7月19日・26日、8月2日・9日・23日・30日(全て金曜日、全6回) 時間▼午後1時30分～3時30分 定員▼30人程度 講師▼永田初枝さん(茗溪学園講師) 費用▼100円程度/回(資料代)



(日)(必着)まで(月曜日を除く)の午前9時～午後9時(日曜日は午後5時まで)に、電話、郵送(はがき・封書)(▽講座名▽住所▽氏名(ふりがな)▽年齢▽電話番号▽勤務先・学校名(村外在住者のみ)——を記入)、いばらき電子申請・届出サービス(右の二次元コードからアクセス可)またはお越しの上、中央公民館(〒319-1115 船場768-15 ☎282-3329)へ申し込みください。

村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。

【地域社会と原子力に関する社会科学支援事業】リレーエッセー

若手研究者からのメッセージ

東海村の若者の意見を、日本や世界へ届ける研究

キャノングローバル戦略研究所
研究員

渡辺 凜

皆さんこんにちは。私は平成26(2014)年、平成27(2015)年と2年にわたり、東海村から資金をいただき、「高レベル放射性廃棄物の処分政策」の研究を行いました。当時は22歳の大学院生で、研究予算をもらうのもインタビュー調査も初めて、おまけに事業も初年度で、共同研究者の寿楽浩太氏(東京電機大学教授)はもちろん、事業に関係する役場や市民委員、学術委員の方に支えられて乗り切りました。



印象的だったのが、応募の書類に「東海村にとっての意義」を書く欄が広々と1ページあったことです。そういう観点で自分の研究を考えたことがなかったので、頭を抱えました。難題ですが、日本の原子力開発を支えてきた東海村の将来を担う若者たちの声を、原子力政策の大問題の一つである「廃棄物処分政策」に届ける方法を示せたことが、最大の功績だと考えています。集めた意見を専門家に見せて、その実現方法を考えてもらうことで、専門知識を持たない人の意見でも、具体的な技術の代替案や改善案につなげられる方法です。

もう一つ、研究の成果を発信する中で見えてきた意義もありました。それは、「地方自治体が直接、研究者を支援して社会問題について研究する」というこの事業は、世界でもかなり珍しいということです。米国の社会科学系の専門家が集まる場で、この研究が表彰されたとき、「とても有意義な事業で、東海村は本当に先進的だ」と褒められました。研究者として、これまでで一番誇らしかった瞬間かもしれません。



▲「地域社会と原子力に関する社会科学支援事業」報告書

【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)